

今年度の健康課題『歯と口の健康について』

本校の実態

過去3年間の学校歯科検診の結果を図1にまとめた。う歯（虫歯）の者（未処置う歯のある者と処置完了者）の割合は、全校でみると減少傾向だが、未処置う歯のある者の割合は、小学部・中学部・高等部3年、そして全校で年々増加している。文部科学省による学校保健統計調査（全国）の結果と比較する。新型コロナウイルス感染症の流行による学校検診の遅れから、今年度の学校保健統計調査は未発表のため、平成30年度と令和元年度について比較した（図2、3）。全国と比べ、本校の未処置う歯のある者の割合は少なく、受診・処置率は良いといえる。今年度の未処置う歯のあった者の受診率（1月末日現在）は30%だった（例年30%前後）。

次に、う歯の者の割合を、学校保健統計調査の全国・大阪府の結果と、本校を比較した（図4、5）。平成30年度では中学部・高等部が、令和元年度では高等部が、全国・大阪府より多くなった。未処置う歯は少なく、受診・処置率は良いものの、う歯になる者は多く、う歯予防が課題といえる。

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染対策として、給食後の歯磨きの中止や、歯磨き指導において歯垢の染め出しとブラッシング指導ができず、今後う歯の増加が懸念される。また、昨年度末の春休みが全国緊急事態宣言下であったことや、今年度の長期休暇の期間短縮による受診機会の減少、感染を恐れて受診控えなど、未処置う歯のある者の増加につながった可能性が考えられる。今なお、新型コロナウイルス感染症が流行しており、歯と口の健康について取り組みの強化、感染対策との両立が求められる。

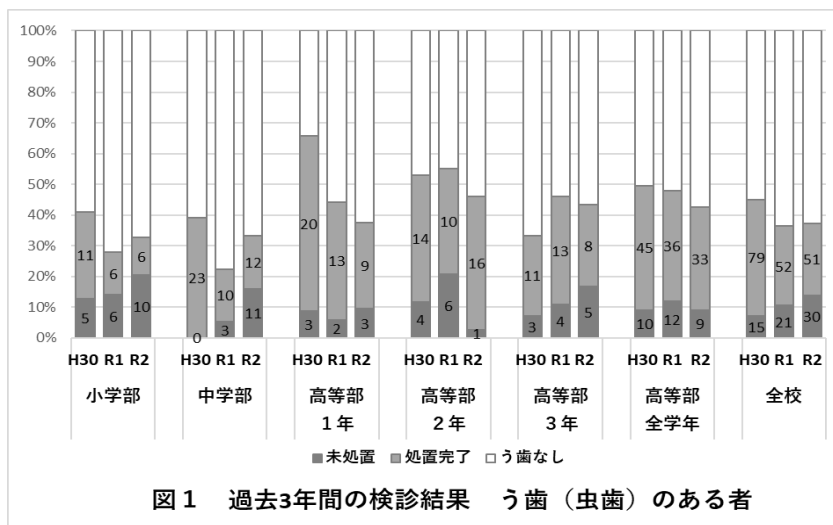


図1 過去3年間の検診結果 う歯（虫歯）のある者

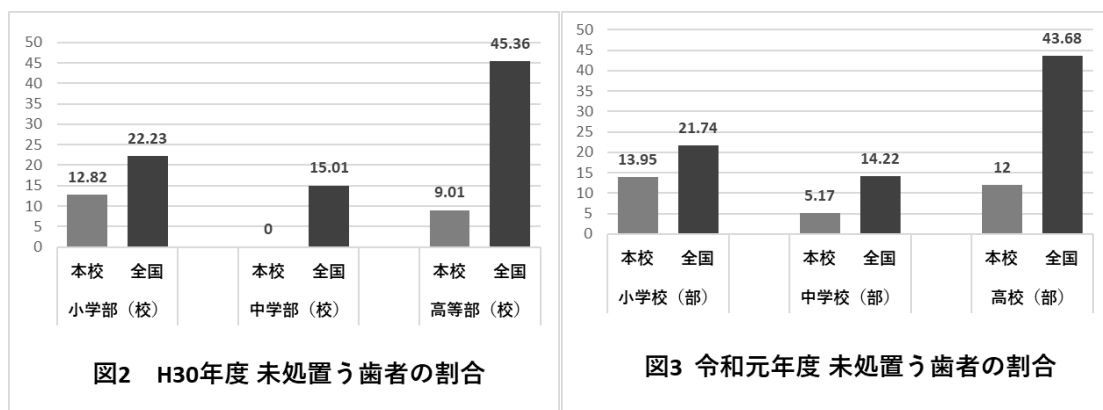
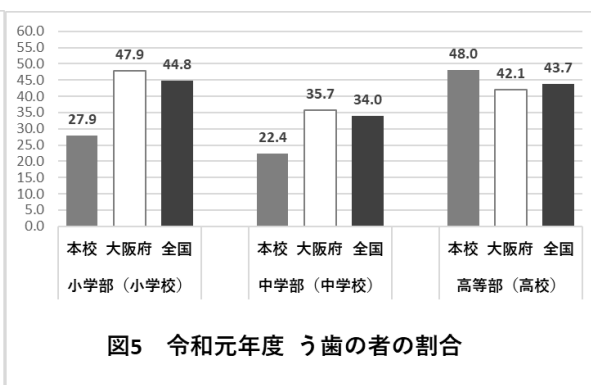
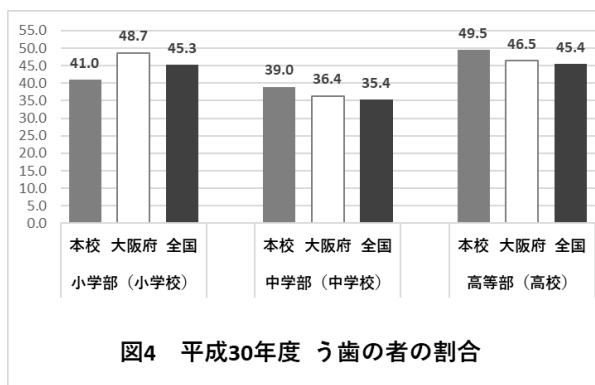


図2 H30年度 未処置う歯者の割合

図3 令和元年度 未処置う歯者の割合



今年度の歯と口の健康についての取り組み

1. 給食後の歯磨き

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染対策のため中止。うがい等も実施していない。

2. 歯みがき指導

小学部全学年、中学部1年、高等部1年を対象に、今年度より全学部、歯科校医の杉本先生により実施。感染症対策のため、歯垢の染め出しや直接のブラッシング指導は行わず。

3. けんこうタイム

歯と口の健康をテーマにDVDを作成し、お昼休みに放映。DVDの構成は、主に保健委員の児童生徒がテーマに沿った問題をクイズ形式で出題し、その問題に考えて答え、歯科校医の杉本先生が解説するというもの。

けんこうタイムの問題は次の5問。

問題1 歯ブラシは、次のうちどれと同じ持ち方ですか？

- ① おはし
- ② 鉛筆

問題2 虫歯が一番できやすい時期はいつですか？

- ① 食べた後
- ② 寝ている間

問題3 歯より柔らかいものは、次のうちどれですか？

- ① 鉄
- ② ダイヤモンド

問題4 歯石の正体は、次のうちどれですか？

- ① 食べ物のかす
- ② かたくなった歯垢

問題5 けがで歯が抜けたら、どうなりますか？

- ① 二度と元には戻らない
- ② くっつくことがある

歯科校医の先生よりご助言を頂きました。

「令和２年度 学校保健委員会 資料」について

貴校における歯科保健活動は、その特殊性から指導が困難になると思われます。新型コロナウイルス感染症により、保健活動の制限もありますが、出来る限りご尽力いただきますようよろしくお願いいたします。

歯科検診は、あくまでスクリーニングです。受診を勧められた児童、生徒が、治療の要否をかかりつけ歯科医で診断してもらい、適切な対応をしてもらうことが重要です。その点で受診、処置率が良好なのはいい傾向だと思われます。カリエスリスクの高い児童・生徒は家庭環境などがファクターになっているケースが多いので、ご父兄との対話で口腔環境を安定化させることの重要性を認識していただくことが重要です。更に受診、処置率が向上するように啓発方法、情報発信を検討していくことが望まれます。

う蝕がやや増加傾向にあるようですが、直近の結果だけでは、特定のハイリスク集団が在学しているだけかもしれませんので、もう少し長いスパンで考えていただいた方がいいかと思います。